

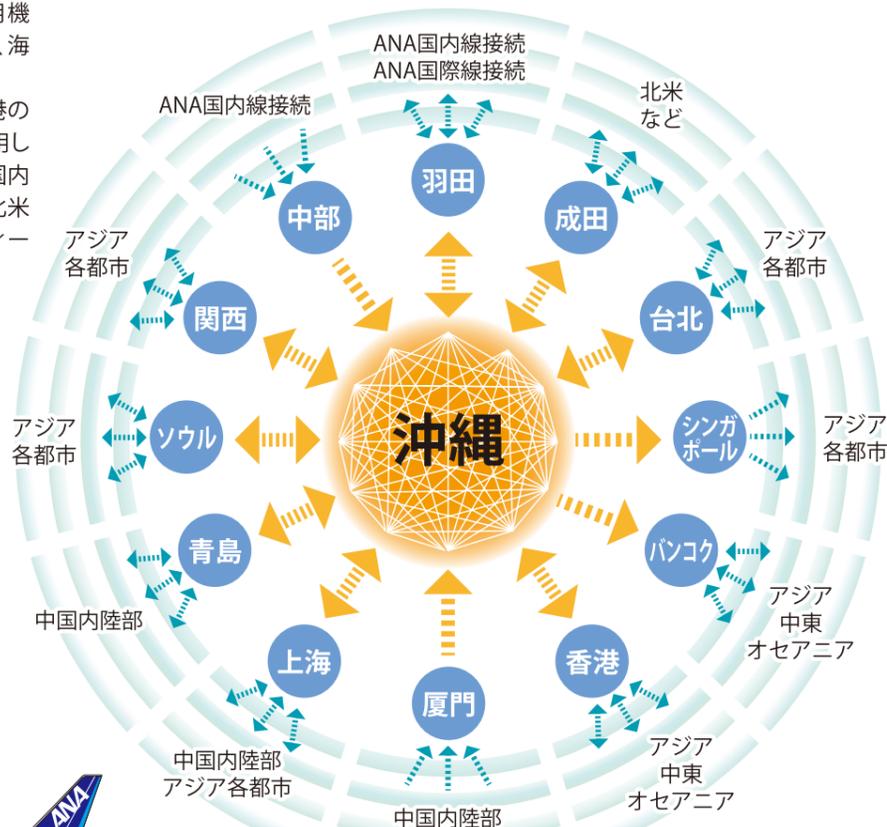
沖縄は発展する東アジアの中心に位置するという地理的優位性に加え、那覇空港は24時間運用が可能と なっています。 これらの利点と、豊富な国内線・国際線ネットワークを活用し、これからのビジネスに求められる輸送ニ ーズに的確に対応します。

## 日本とアジアの主要都市を結ぶネットワーク

### 那覇空港を基点に日本とアジアの主要市場を結ぶ

那覇空港を基点に、貨物専用機 (B767F) が週6便、国内4空港、海外8空港に就航しています。

さらに、那覇空港及び羽田空港の国内線旅客便ネットワークを利用した国内各地の空港との接続や、国内外の主要空港との接続により、北米や欧州向けの貨物もスピーディーに輸送することが可能です。



貨物専用機 B767-300F  
積載可能重量:約50t



## 深夜出発・翌朝到着の高速物流を実現

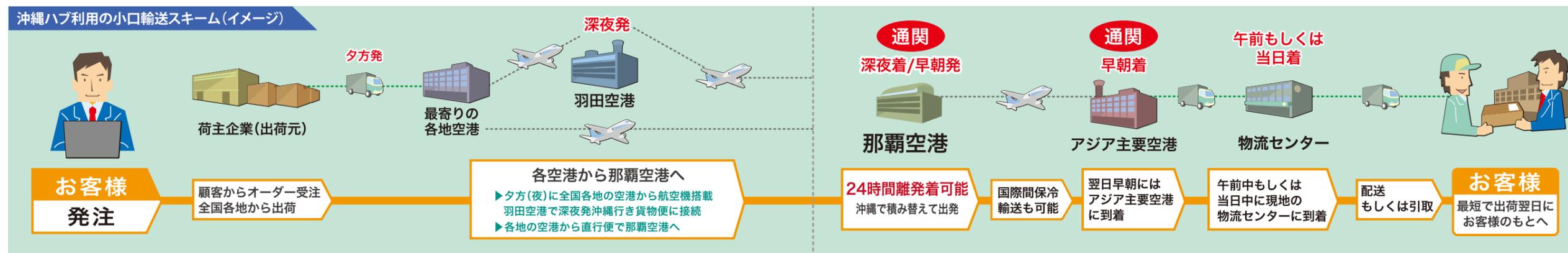
24時間運用の沖縄国際物流ハブを経由することで、日本を含むアジア主要都市を深夜に出発、翌早朝に目的地に到着する「高速物流」を実現しています。

出発地	出発時刻	沖縄到着時刻	沖縄出発時刻	到着時刻	到着地
国内線	羽田	深夜1時～5時台到着 「那覇空港にて荷物積み替え」	翌早朝4時～7時台出発	羽田	羽田
成田	成田				
関西	関西				
名古屋	名古屋				
上海(浦東)	上海(浦東)				
国際線	青島	翌早朝4時～9時台到着		青島	青島
香港	香港			上海(浦東)	
厦門	厦門			香港	
台北(桃園)	台北(桃園)			台北(桃園)	
ソウル(仁川)	ソウル(仁川)			ソウル(仁川)	
				バンコク	
				シンガポール	

※平成28年3月現在  
※詳細なスケジュールはANA Cargoへご確認下さい。

## 全国各地からアジア主要都市へ、最短翌日配送も可能に

「航空貨物便ネットワーク」、「24時間通関体制」、「高付加価値機能」を一体化させた沖縄国際物流ハブの活用で、アジアへの 翌日配送を可能にしています。



工業製品の部品などを沖縄に集約することで、沖縄国際物流ハブの特性である深夜貨物便の活用と24時間の通関体制により、各国に倉庫を持つ場合と遜色のないスピード輸送を実現できます。また、沖縄を拠点とすることで在庫圧縮によるコスト削減や保税制度の活用により、合理的な在庫マネジメントや新たなビジネスモデルの構築が可能になります。

間の通関体制により、各国に倉庫を持つ場合と遜色のないスピード輸送を実現できます。また、沖縄を拠点とすることで在庫圧縮によるコスト削減や保税制度の活用により、合理的な在庫マネジメントや新たなビジネスモデルの構築が可能になります。

## 沖縄へ在庫集約とスピード配送

### アジア向けのリペアパーツ在庫拠点

緊急輸送が求められるリペアパーツは、沖縄に在庫拠点をおくことで、緊急対応力を高めることができます。また、アジア各地に生産拠点があり、それぞれにリペアパーツを分散させてストックしている企業などでは、沖縄のストックセンターに在庫を集約することで、在庫の圧縮やコストダウン等のメリットも期待できます。

### 国際ロジスティクスセンター4号棟



沖縄ヤマト運輸による「パーツセンター」運用

### ○沖縄へ在庫集約



### ○沖縄から各地へスピード配送



## 他にも、例えばこんなビジネスモデルにおすすめです

### 電子機器等の検査・修理拠点

電子機器や精密機械等が故障した際の修理拠点を、国際物流特区(国際物流拠点産業集積地域)内に設け、アジアのリペアセンターとして活用することで、修理や加工業務を保税状態で行うことが可能です。アジア主要都市を4時間圏内でカバーする沖縄なら、修理受付から再配達までの日数も短縮でき、顧客対応力の向上が図れます。



### アジア向けの通販・Eコマース拠点

アジア各都市への配送を意識したストックセンターを沖縄に設置することで、顧客からの注文に即応して配送することが可能です。また、沖縄での在庫、保管機能の他、梱包等の作業、コールセンターによる受注などの総合的なEコマース拠点として活用することも可能です。

### 沖縄アジアEコマースセンター

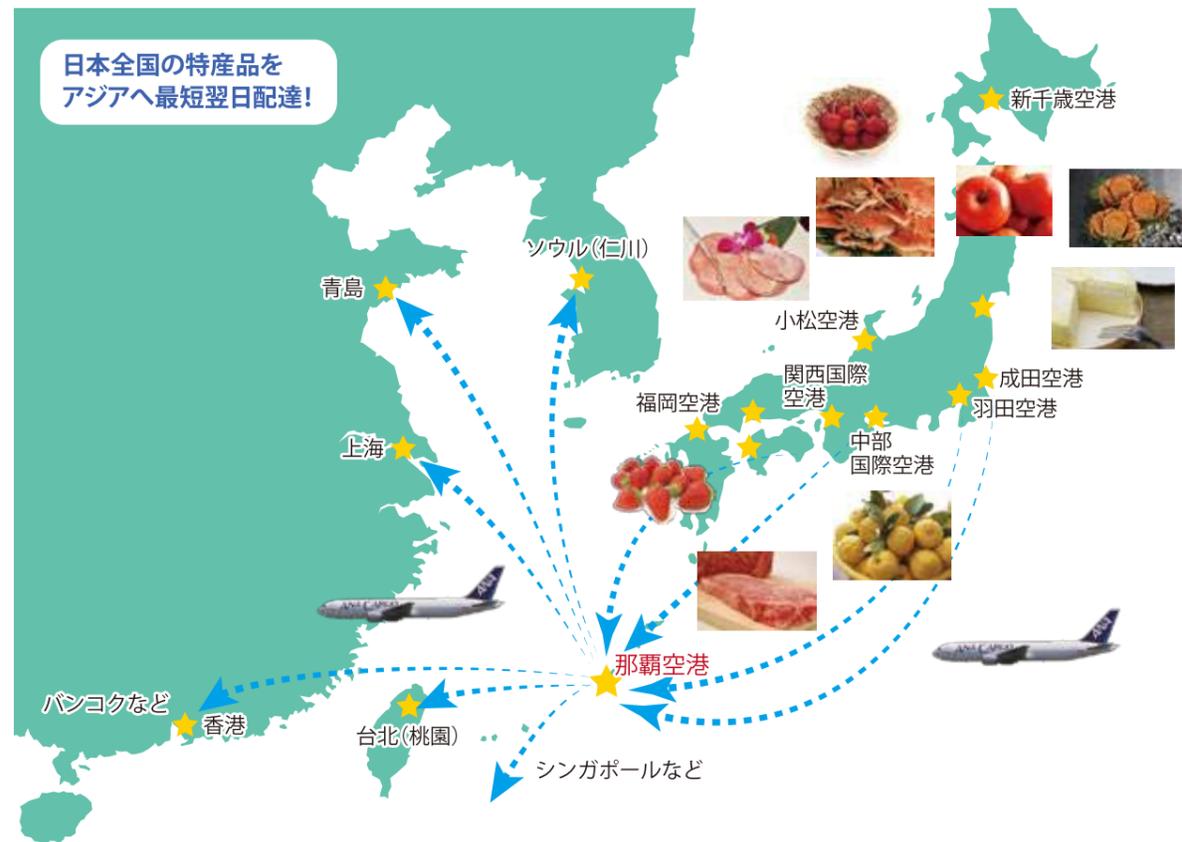
- ①在庫保管・管理
- ②受・発注処理
- ③梱包・流通加工
- ④WEB掲載写真撮影
- ⑤WEBサイト作成管理
- ⑥コールセンター

沖縄県では、沖縄国際物流ハブの物流機能を活かし、日本全国の特産品を沖縄経由でアジアへと輸出する 全国特産品の流通拠点化を推進する取り組みを、各地域と連携して推進しています。

## 全国の特産品流通拠点化の推進

### ■日本全国の特産品を新鮮な状態で海外へお届け

経済成長を続け、所得水準が向上しているアジア諸国では、食へのニーズも多面的な広がりをみせています。海外からの食品の輸入も大幅に拡大しており、中でも安心、安全な日本産の食品に対する関心やニーズも高まっています。沖縄国際物流ハブは、全国の特産品を付加価値の高い、新鮮な状態で海外へお届けします。



### ■年々増加する農水産物の輸送実績 航空輸送に強い沖縄国際物流ハブ

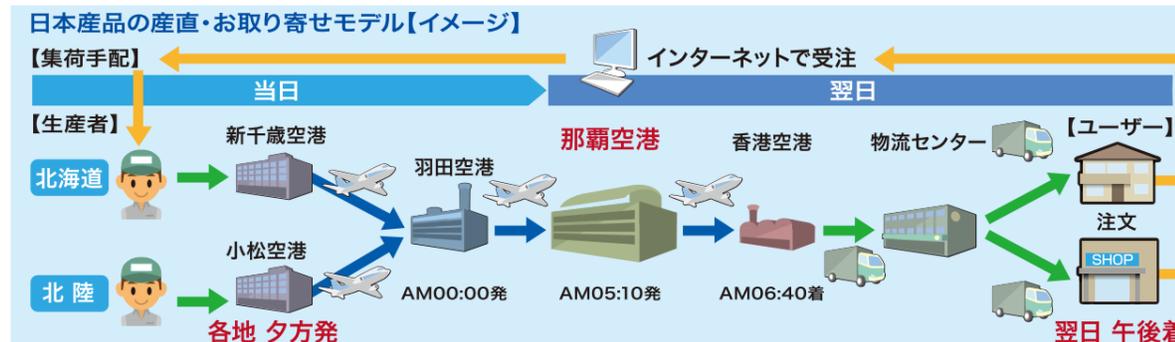
平成21年(2009年)10月の国際物流ハブ事業の開始以来、那覇空港における食料品の輸出額は、毎年増加しています。特に、平成26年度のイチゴの輸出量は約16トンと前年度比約16倍の実績となりました。

全国的にも、国や自治体の輸出拡大戦略等により農水産物の航空輸送量が増加してきています。今後、アジアへ新鮮な食料品の配送を可能とする沖縄国際物流ハブが更に注目されるとともに、沖縄を経由した食料品の輸送量増加が見込まれます。



## 可能性が広がる特産品流通拠点

### ■Eコマースと沖縄国際物流ハブの活用で販路拡大



例えば、各地方名産品のコラボで、商品力のアップも!



沖縄国際物流ハブを活用して輸送することで、他地域の特産品とのコラボレーションも実現し、付加価値の高い商品をアジアの食卓にお届けすることができます。

### ■青森県「A!Premium」での活用事例

青森県はヤマト運輸(株)と連携して国内外への新流通サービス「A!Premium」を構築。海外向けは沖縄国際物流ハブを活用し、青森からアジアへ最短翌日配達を実現しました。

青森県内のサプライヤーの皆様からは、新しい輸出手段の一つとして評価をいただいております。特に、鮮魚や活ホタテなどは、香港の高級日本食レストランチェーンから鮮度や美味しさなどで高い評価を受けています。また、フェアの開催や定番化などにもつながっており、現地の消費者からも大変好評をいただいております。

また沖縄県では、青森県と共催で「A!Premium」輸出商談会を開催するなど、沖縄国際物流ハブの利活用により、日本の農水産物の一層の輸出が図られるよう、引き続き連携を強化し、取り組んでいきます。

○「A!Premium」海外輸送サービス



※「A!Premium」についての詳細はこちら⇒<http://www.a-pre.jp/>

### ■三重県「県産品輸出支援事業」での活用事例

三重県は平成27年(2015年)11月より、沖縄国際物流ハブを活用し、三重県産品の海外輸出における国内輸送費用を支援する事業を開始しました。

この事業は、沖縄国際物流ハブを活用して輸出する事業者に対して、三重県内から那覇空港までの国内輸送費の一部を支援するものです。那覇空港からは沖縄県事業「航空コンテナスペース確保事業」を活用し運賃の低減化を図り、三重県産品のアジア市場への展開、県内中小企業・小規模企業の海外進出、販路拡大を促進する目的があります。

この事業の活用とリードタイムが短いというメリットを活かして、活伊勢エビや真鯛などの水産物や新鮮な農産物等の三重県産品の輸出拡大が見込まれています。

○事業イメージ

